



文責 本宮小校長 佐久間仁

学校保健委員会



今年度の健康診断結果などを基に子どもたちの健康状態について実態を把握し、今後の健康教育の在り方について協議する学校保健委員会を開催しました。学校歯科医、保健師、栄養士の先生をお招きし、専門的な見地からご助言をいただきました。※○成果 ●課題

学校の説明（健康診断結果から）

【歯の状況について】

①本校の歯科検診結果の推移

○う歯なしの児童が昨年より増え、過去最高の値（四十六・九％）になった。

●治療に行かない児童（家庭）に対して治療を呼びかけ、処置完了者を増やしていく必要がある。（十一月三十日現在六十六・一％）

②う歯罹患率の推移

○う歯の罹患率が、年々減少して

いる。毎年、歯科衛生士による歯みがき指導を行い、歯みがき実施状況を調べている。フッ化物洗口も令和五年二月から実施している。●全国や県の結果が今後発表されると思うが、国と比較するとまだまだ上回っていると予想される。

③歯に関する取り組み

①フッ化物洗口

・週一回、朝の時間に行っている。

問題点として朝の歯みがきをしっかりと行っていない状況でフッ化物洗口をしている児童がみられる。

②歯科衛生士による歯みがき指導

・毎年一回、市の事業として在宅の歯科衛生士が実施しており、発達段階に応じた指導を行っている。

③昼の歯みがき

・新型コロナウイルス対策として歯科医師会から出された「新しい歯のみがき方」の方法で給食後の歯みがきを行っている。週末には家庭を持ち帰り、歯ブラシの交換と消毒をしている。

④児童保健委員会

・歯の衛生週間には、委員会の児童が全校生の歯ブラシの状態をチェックしている。週一回のさわやか調べで朝の歯みがきについて調べ、結果を放送で知らせている。

④歯のけがについて

・年間二〜三件、転んで前歯を折る、強打するなどのけががある。

折れた場合は、折れた歯を歯の保存液に入れて受診している。

【児童の体格について】

①児童の発育状況

○今年度は、一年生の体格がよい。

●全体的に、安達地区の平均値と同様の傾向にある。

②肥満傾向児の出現率と推移

○安達地区と比べると、一、五年生の他は肥満傾向児童が少なく

○六年生は肥満傾向児童が著しく少ない。

●今後、国や県の測定値が発表されるが、肥満傾向児童は多いと予想される。

●福島県は、震災以降の肥満傾向児童の増加が問題視されたが、新たに新型コロナウイルス感染症により制限を受け、体重の増加傾向がみられた。本校でも、コロナが第五類となり普通の生活に戻って

はいるが、SNSの使用により外遊びが減る等、生活や運動に対する影響が感じられる。

○視力一・○未満の児童は、前年度（四十二・八％）と比べると、少し減少した。

●三年生から視力の低下がみられる。

●学年が上がるとともに、○・二以下の児童が大幅に増加する。

●近視になると、軽度でも、将来、



白内障や緑内障、網膜剥離などのリスクが上昇するので、近視を防ぐまたは進行させないように呼びかける。

②指導（先生方より）

【学校歯科医 野内 学先生】

○むし歯予防のベースは歯みがきである。口の中を清潔にしておくことは、いろいろな病気の予防にもなる。「食べたらみがく」習慣を大人も子どもも（家族みんな）実践してほしい。

○環境の変化が大きいとこそ、家庭の力が試されていると思う。

むし歯も肥満も近視も親の意識である程度は防ぐことができるはず。

高学年になっても永久歯が生えそろうまでは親が仕上げみがきをするなどかかわりをもってほしい。

【栄養士 眞壁 恵先生】

○かむことは食べる力であり、生きる力につながると思う。今後学校とともに食育を推進することで、子どもたちに直接働きかける場を大切にしていきたい。

*先生方ありがとうございました



健康な毎日を